

## 令和4年度 市長と語るまちづくり懇談会（大津島地区）会議録

日 時：令和4年7月14日（木）午前9時30分から午前10時30分まで

場 所：大津島ふれあいセンター

テーマ：「地域で語るまちづくり」

出席者：周南市長

大津島地区コミュニティ推進協議会の皆様

大津島支所（支所長 他）

シティネットワーク推進部（部長、市民の声を聞く課長 他）

### 1 懇談会の流れ

- (1) 開会
- (2) 大津島地区の行事や活動などについて紹介
- (3) 懇談
- (4) 閉会

### 2 大津島地区の行事や活動などについて

- コロナ禍でこの2年間主な行事はほとんどできていない。今までの実績としては、さくら祭り、須金地区との交流会、建国記念・文化祭、ポテトマラソン、敬老記念行事などがある。昔はにぎわっていたが、人口が少なくなり行事をまとめて行うことも多い。
- 大津島は新型コロナウイルスのワクチン接種が市内でも先行して行われ安心して過ごせた。感謝している。
- コミュニティ協議会内に設立された生活支援サービスセンター「しまさぼ」というグループが島の今後を担う。現在3人で活動しており、買い物支援とは別の生活支援を行っている。仕事内容は草刈り、枝の剪定、ハチの巣駆除、自転車のパンク修理、網戸のはりかえなど多岐に渡る。年々依頼も増えており、3人では大変なこともあるが、依頼があったらなるべく受けたいと思っている。

### 3 頂いた主な御意見

- 人口減少が課題。近年、島内をパトロールしていると人に出会わない日が何日もある。畑も随分荒れた状況になっている。空き家も増えてツタが絡まり、猪のすみかになっているところもある。人口減少と猪の問題について困惑している。
- 2人赤ちゃんが生まれて、9月にはまた一人増えて3人になる。赤ちゃんは移住してきた方の子どももいる。幼い間は良いが、学齢期になると島を出ていかないといけなくなるという決断をしなくて済むように、幼稚園の再開などしてほしい。赤ちゃんの声は島にとって希望の光であり宝である。
- 側溝の清掃については、大津島海の郷の研修生に研修の中で掃除をしてもらっていたが、コロナの関係でできておらず清掃が追いついていない状況である。大雨が降ると道路が川のようになる。アスファルトが剥げてきているところもあり、ポテトマラソンで走っている時につまずかないか心配である。改善してほしい。

- 徳山大学が公立化したことにより、周南市には大学、高専、工場地帯、中山間地域等色々なものがそろった。周南公立大学には、中山間地域である大津島や須金と連携して研究開発をしてほしい。特に大津島に大学の郊外キャンパスみたいなものを作って、島の発展に役立つような研究をしてほしい。そしてそのうちの何人かが島に移住でもしてくれたらいいと思っている。
- 今年は盆踊りを実施するか検討しているが、また新型コロナウイルス感染症の感染者が増加傾向にある。盆踊りは島外の参加者も多い。この2年はやっていないが、今年はどうしようか思案しているところ。市の方からアドバイスをしてもらえないか。また他の地域では行っているのか。

#### 4 市長の主なコメント

- 今までは中山間地域の空き家に対して100万円の補助を出していたが、街中の空き家もリフォームされる人には50万円を補助している。また、その人が子育て世帯であれば100万円の補助を出すという制度を作った。これが周南市の移住対策、空き家対策になると考えている。
- 幼稚園の1学級の幼児数は、3歳児で20人以下という規定を作っているが、2、3人となると教育という面で問題がないか併せて考えているところである。期待させるようなことは言えないが、しっかり検討させていただく。
- 道路の件に関して、色々な事情があって計画が遅れていると聞いている。刈尾港の待合所整備は準備を進めている。馬島港の改修も実施予定である。道路等の不具合は支所長を通して教えてほしい。
- 大学と連携して何かできないか学長ともよく話す。具体的にしてほしいことや一緒にやっていきたいことをまとめてほしい。単に若者の力を借りるだけでなく学術成果が上がるものがあると思う。具体的に一緒にやりたいことがあれば、大学側も連携して何かしていきたいという思いは持っている。
- 盆踊りの実施は地域ごとの判断に任せている。敬老会は中止をしており、飲食を伴わず式典だけではやらない選択をする地域が多い。